広報 すぎなみ

Suginami

支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

1/15
平成31年（2019年）
No.2246

地域連携の「教育」その支え手として。

子どもたちが健やかに成長していけますように──それは家族や先生だけの願いではありません。杉並の各地域で、子どもの“豊かな育ち”を支える人たちがいます。時に地域・学校を結ぶパイプ役として、時に子どもたちのよき相談役として奔走する青少年委員の皆さん。今号では同協議会会長の伊藤さん、今年度から委員となった諸橋さん、10年の活動を経てOBとなった唐澤さんにお話を聞きました。

Contents ―主な記事―

7｜不妊治療への助成を行っています　8-9｜個人住民税・所得税の申告期限は、3月15日㈮です　10｜なかま集まれ！　16｜切断ヴィーナス～越智貴雄写真展

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ｜ 3312-2111（代表）FAX 3312-9911（広報課直通） ｜ 区ホームページ：http://www.city.suginami.tokyo.jp/ ｜ 発行：杉並区 ｜ 編集：広報課

広報すぎなみは月２回（１・15日）発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

杉並に広がる教育のネットワークをつなぐ「駅」のような存在でありたい。

—青少年委員の皆さんの活動には、主にどのようなものがありますか？

唐澤：青少年委員は大きな2本の柱を軸に活動しています。1つは地域と学校を結ぶパイプ役としての活動。もう1つは小中学校の子どもたちの地域活動をサポートする活動。子どもたちの地域活動というのは、地域でのボランティア活動や、中学校区ごとに1年に1度行われる「子ども地域活動促進事業」（以下「子促事業」）などのことです。

伊藤：地域のイベントに中学生ボランティアのサポート役として参加する機会も多いですが、子どもたちと同じくらい私たち青少年委員も楽しませていただいています。高齢者、障害のある方、子どもから大人まで、地域のさまざまな方がつながる貴重な場のお手伝いをさせていただけることは、とてもありがたいです。

諸橋：私は30年度から青少年委員を務めさせていただいています。実際に活動に加わってみて、委員の皆さんが重責を感じさせず、とても軽やかに生き生きと活動されている様子を目の当たりにし、非常に感激しました。地域の子どもたちと自然体で関わっていらっしゃる姿が本当にすてきで、私もそんなふうに関わっていきたいなと強く感じました。

唐澤：「子促事業」では、毎年それぞれの中学校区で趣向を凝らしたお祭りなどを開催していますが、その現場は地域の子どもたちのつながりの場にもなっています。中学生の子が幼稚園児くらいの小さな子に優しく接したり、頑張っている姿を見て、来場した方の中には「中学生のイメージが変わりました」と言われる方もいました。

諸橋：私の担当する中学校区は30年度の「子促事業」を3月に控えていて、実行委員に立候補してくれた小中学生による実行委員会がまさに始まったところです。最初は「子どもたちがどれだけできるのかな」と不安に思っていたのですが、実際に中学生たちの話し合いの場を見ていると驚かされます。子どもたちの力できちんと組織し、中学生がリーダーシップを発揮して小学生をうまく引っぱっていってくれています。改めて、「子促事業」は子どもたちの大切な“育ちの場”なのだなと実感しました。その子どもたちにちょっとしたアイデアを渡すなど、後押ししてあげるのが、私たち青少年委員の役割なのだと思います。

唐澤：そうですよね。学校の授業の中だけでは見えないところもあるので、先生が「実行委員長で大丈夫かな」と心配することもありましたが、ちゃんときっちりやり遂げるんです。活動の場が違うと、日ごろ学校や家庭では見せることのない一面が出てきたり、思いがけない手腕を発揮したりと、子どもたちにとっても地域活動だからこそ得られる成長があるのではないかと思います。

ステージのモニュメントは、美術部の生徒を中心に地域の子どもたちが完成させました！

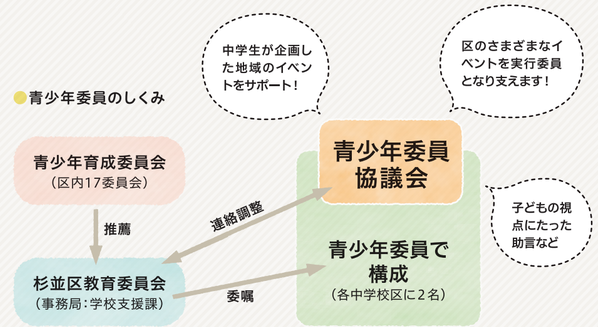
▲大宮中学校区の子ども地域活動促進事業「地域音楽交流会」で、中学生が「南中ソーラン」を踊っている様子。他にも、幼児から平均年齢80代のフラダンスグループまで幅広い年齢層が参加。

青少年委員とは？

区内17の地域で子どもの健全育成事業を行っている青少年育成委員会からの推薦を受けて、区教育委員会が委嘱する非常勤の公務員です。中学校区で各2名が選ばれ、担当中学校区の地域教育連絡協議会等の事務局として子ども地域活動促進事業等を担うなど、学校・地域・家庭・行政と連携しながら子どもたちの豊かな人間性を育むお手伝いをしています。

区内で45名の委員が活動中です

●青少年委員のしくみ



| 小中学校での主な活動 |

●住民・団体・行政相互のパイプ役
地域教育連絡協議会事務局・地域教育推進協議会事務局等

●青少年の地域活動支援
青少年育成委員会活動や子ども地域活動促進事業等

●児童館の地域中・高校生委員会
中高校生の意見を取り入れた地域での居場所づくり

…など

伊藤：「子促事業」の大きな目的として、子どもを子ども扱いせず、地域社会の一員としての意識を持って活躍してほしいという点があります。そういった意味では目的に沿った、とても有意義な現場になっているのではないでしょうか。

—活動をされる中で難しさを感じる点はありますか？

伊藤：物理的に大変な部分はあります。特に中学生ともなると部活や学校の行事、塾など何かと忙しいので、「子促事業」の実行委員をお願いするタイミング、実行委員になってもらった後の集まりなど、スケジュールを調整してまとめていくのがなかなか大変です。

唐澤：実行委員を集めること自体も、最初の頃は難しかったですね。私が29年度まで担当していた中学校区は、今でこそ50人近くの子どもが進んで立候補してくれるようになりましたが、当初は学校の生徒会の子どもたちに頼み込んで引き受けてもらっていました。実際に経験するとそのやりがいや楽しさを理解してもらえるのですが、周知するまでは苦労しました。ただ、大変なことはもちろんありますが、それ以上に喜びが大きいのが青少年委員なんです。

—喜びというのは、例えばどんなことですか？

諸橋：私はこれまで保護者として学校と関わっていましたが「子促事業」では、「○○のお母さん」と呼ばれるのではなく、同じ目線で共に活動する「諸橋さん」として親しんでもらえることに幸せを感じています。

伊藤：わかります。自分が親として子どもと関わるのとは、また違うんですよね。“友だちプラス”みたいな関係だなと私は思っています。中学生という、多感で親として関わるには悩みも多い時期に、子どもたちとそんな関係性を築けるのは嬉しいです。

唐澤：自分の子どもが卒業するわけではないけれども、子どもたちが卒業する時、1年生ではおぼつかない印象だった子たちが、活動を通してさまざまなことを達成して、3年生の最後に素晴らしい成長を遂げている姿を見ると、胸がいっぱいになります。また、私は青少年委員を10年間務めましたが、委員になったからこそ出会えた人たち、経験できたことは、これからもずっと宝物です。

—今後の抱負について聞かせてください。

▲「社会を明るくする運動」推進イベントでブースを担当

諸橋：今年度初めて青少年委員の会議に出席し、青少年委員の皆さんが一堂に会する場を目にしたとき、青少年委員というのは杉並のネットワークをつなぐ「駅」のような存在だという印象を受けました。教育というテーマでつながるプラットホームのようなものなのだ、と。私自身もその駅のひとつになった責任をしっかりと受け止め、地域との連携を一層深め、そして諸先輩方のように楽しみながら子どもたちの“育ちの場”をより良いものにしていけるよう頑張っていきたいです。

伊藤：私は任期が満期となる10年まで、残すところあと1年となりました。とはいえ、私の担当する中学校区は新設校で、これから新しい取り組みがまだたくさん控えているため、最後まで挑戦が続きます。しっかりと次にバトンタッチしつつ、自身の役割を終えてもまた、これまでの経験や蓄えてきた知識を違ったかたちで地域に還元していけたらと思います。

唐澤：私も青少年委員は終えましたが、もうしばらく子どもたちに関わっていきたいなと思っています。いかにして青少年委員の存在を知ってもらうかをずっと課題にしてきて、少しずつ浸透はしてきたものの、まだまだ認知度は低いと思います。ぜひこのような活動を知っていただくとともに、各中学校区で開催されるお祭りなどに来ていただき、子どもたちが活躍する姿を見ていただけたらと願っています。

CHECK!
青少年委員の活動をまとめた「青少年委員だより」もご覧ください。 杉並区青少年委員

すぎなみビト × 青少年委員 interview

青少年委員協議会 前会長・OBの 唐澤弘子さん

青少年委員協議会 会長・伊藤歩さん

今年度から 青少年委員となった 諸橋記子さん

すぎなみビト…区内外で活躍する区民などの紹介を通して、地域の魅力を発信していきます（毎月15日号に掲載）。